

[概要]

本稿は、富山県射水市大門地区を事例に、子育て観の変化が子どもの遊び空間に及ぼす影響を分析したものである。調査の結果、祖父母世代での「地縁に基づく自律的な子育て」から、父母世代の「家庭単位の管理的な子育て」へと価値観が劇的に変化した実態が判明した。これにより子どもの日常的な移動空間は縮小し、自発的に遊びを創出する機会の減少が確認された。一方で、親の介入を条件とすることで、地域を越えた空間的な広がりが生じていた。さらに、世代間で遊びの屋内化に大きな差が見られなかった要因として、父母世代が子ども時代を過ごした2000年前後において、既に遊びの屋内化と空間縮小は概念化していたことが特定された。以上より、現代の子どもは、親の介入というフィルターを通じて安全な環境で人間関係を構築しており、地方都市における新たな空間構造と社会性のあり方が示唆された。

キーワード：子育て観，遊び空間，地縁，管理的子育て